

2011・4・23－2013・3・31

特定非営利活動法人 レスキューストックヤード

宮城県七ヶ浜町

「ボランティアきずな館」

活動のあゆみ



volunteer **KIZUNA-KAN**



ごあいさつ～「ボランティアきずな館」閉所にあたって

特定非営利活動法人レスキューストックヤード代表理事・栗田暢之



今から7年前の2006年1月28日、七ヶ浜町国際村ホールにて、同町社協主催の「災害ボランティアセミナー」で講師としてお招きいただきました。帰り際にご案内いただきました多聞山から見下ろした松島の限りなく碧く、きらきらと輝く海はまさに絶景でした。時は経て2013年3月11日、東日本大震災七ヶ浜町追悼式に、犠牲となられた方々に献花をさせていただきました。7年前の出会いから、社協が当法人の賛助会員になっていただいたことがご縁となり、震災以降2年の日々をともに歩ませていただいた節目の日は、奇しくも同じホールでの哀悼となりました。

本日閉所する「ボランティアきずな館」は、日本財団様と近藤産興株式会社様、その他有縁の多くの方々のご支援・ご協力を得て4月23日より開所し、名古屋から延べ3000人のボランティアバスを受け入れ、また延べ8000人のボランティアの宿舎として活用されました。そして多くの町民の皆様にも足を運んでいただき、ともに語らい、ともに涙し、ともに笑いなが

ら、ころところが交わる支援活動の拠点となりました。きずな館でのこうした取り組みは一区切りとなりますが、それは決して支援の終焉を意味するものではなく、ずっと応援したい気持ちに何ら変わりはありません。それは、震災直後の渡辺町長との面談の際、「美しい七つの浜を取り戻したい。ぜひ応援していただきたい。」という約束を今後も微力ながらしっかり果たしたいと願っているからです。

追悼式の帰り際に見た海は、まるで何事もなかったかのように、以前と変わらずきらきらと輝いていました。あとはここに住民自身がしっかりと立ち、海に負けない輝きを一人ひとりが取り戻していただけることを願わずにはられません。

これまでご支援いただきましたすべての皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。そして今後も七ヶ浜、東日本大震災の被災地の真の復興が遂げられますよう、引き続きご支援・ご協力をお願いいたします。

声にならない声に、耳を傾け続けるために

特定非営利活動法人レスキューストックヤード常務理事・浦野愛



2011年3月24日、私たちが七ヶ浜町に初めて足を踏み入れてから2年余りが経ちました。日本財団ROADプロジェクトのご支援により、4月23日に「ボランティアきずな館」がオープンして以来、レスキューストックヤードのボランティアバスは61陣を数え、1,000名（延べ2,953名）のボランティアが七ヶ浜を訪れました。日々の活動中、ボランティアが全身で目の前のたった一人の言葉に耳を傾けようとする姿は、人生の基盤を失った方々にとって、再び笑顔や居場所を取り戻すための大切な拠りどころとなっていました。

しかし、私たちにとって2年はまだまだ通過点しかありません。東京大学の研究チームが、足湯で拾った16,000人分のつぶやきを分析の報告会がありました。結果は、2年前と今とでは、住民の方々が発する

つぶやきにほとんど変化がないとのこと。それどころか、失ったものの悲しみや喪失感、時を追うごとに現実として迫り、深まっています。瓦礫は町から姿を消したけど、住民の方々の心は2年前のあの時に取り残されたままです。無理やり元気とやる気呼び起こして、「頑張ろう、頑張ろう」と自分の心に言い聞かせながら、踏ん張っています。カラ元気でも、無理やりのやる気でも、それでも今、自分たちが懸命に生きていることを、聞いてほしい、見てほしい。今、自分たちが存在していることを、忘れないでほしい。この言葉が、住民の方々の声にならない声として聞こえてきます。

そんな住民の方々に何かしたいと心から願う人たちが、1人でも多く町の人たちと出会えるように、私たちはさらに七ヶ浜での支援活動を継続します。



七ヶ浜町概要

七ヶ浜町は仙台市から15kmほど北東に位置する半島状の町。人口は約2万1000人、面積約13.3km²。

名前の通り「7つの浜」に囲まれ、漁業や観光が盛ん。「菖蒲田浜^{しょうぶた}」は東北で最も古い海水浴場といわれ、家族連れをはじめサーフィンのメッカとして若者にも親しまれています。

昔ながらの漁師町のほか、仙台のベッドタウンとして新興住宅地も開発され、新旧の住民が入り交じった土地柄に。

スポーツ施設やホールが充実しており、外国人の避暑地だった歴史から造られた「国際村」では、地元の子どもたちを中心としたミュージカル劇団がつけられています。

**震度5強の地震後、最大12.1mの大津波が襲来。菖蒲田地区を中心に沿岸の集落に壊滅的な被害
津波浸水面積4.2km²（町面積の31.7%）**

死者104人、行方不明者4人

全壊675世帯、大規模半壊236世帯、半壊413世帯、一部損壊2,598世帯の家屋被害

町内36カ所の避難所にピーク時で6,143人の町民が避難

421戸の応急仮設住宅が町内7カ所に設置、367戸に923人が入居

みなし仮設*には185世帯、534人が入居

住宅の被害を受け、親類宅や社宅などで生活する方々も多数

（2013年3月18日現在）

*みなし仮設：民間住宅を国や自治体が借り上げて、仮設住宅の代わりとして被災者に提供したり、公営住宅や雇用促進住宅、被災者が自力で借りた賃貸住宅も仮設住宅とみなしたりした住宅を総称して「みなし仮設」とし、家賃などを国が負担している。



RSYの東日本大震災被災者支援活動年表

2011年

- 3/11 三陸沖を震源にM9の大地震、大津波発生
- 3/13~20 先遣隊としてスタッフ1人が被災地入り
- 3/17 名古屋・栄で街頭募金開始（その後も週一回のペースで継続）
- 3/20 全国社会福祉協議会の要請で名東倉庫から宮城向け資機材搬出
- 3/24~30 七ヶ浜支援活動第1陣としてスタッフとボランティア計7人が現地入り
- 3/25 震災つな×日本財団ROADプロジェクトスタート
- 3/28~4/2 第2陣計6人（現地で1人合流）が七ヶ浜で支援活動
- 3/30 東京で「東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）」設立総会
- 4/7~4/11 第3陣（運転手、マスコミ関係者含め17人）が七ヶ浜で支援活動
- 4/14 「東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや」が名古屋市社協内に開設
- 4/23 七ヶ浜に滞在拠点「ボランティアきずな館」オープン
- 4/29~ 第4陣出発。以降、ボランティアバスを定期的に運行
- 5/6~5/10 名古屋で「うるうるパック」4,000セットを袋詰め、七ヶ浜の全小中学校などに配布
- 5/6 七ヶ浜で第1回仮設住宅入居者説明会「仮設住宅ってどんなところ？相談交流会」（以後、計6回開催）
- 5/14~5/15 七ヶ浜で表札プロジェクト「まごころ表札づくり」スタート
- 5/16 七ヶ浜国際村で「たべさいん」プロジェクト開催
- 6/4 RSY事務局で「集まれRSYボランティア！～みんなで一緒に考えよう！これからの支援～」開催
- 6/11 まごころ支援「輪っか和っかプロジェクト in 名古屋」スタート
- 6/13 愛知県被災者支援センター開設
- 6/30 七ヶ浜で「きずな喫茶オープンカフェ」開設
- 7/2、4~5 七ヶ浜で応急仮設住宅、在宅避難者・みなし仮設「せともの市&喫茶イベント」開催
- 7/3 七ヶ浜でつながる遊び庭・こどもアートしちがはま「音のワークショップ」開催（以後、月1回イベント）
- 7/30 七ヶ浜で「浜再生プロジェクト」ビーチクリーンスタート（9月10日まで毎週土日開催）
- 9/10 七ヶ浜で震災から1周年イベント「菖蒲田浜復興まつり」開催
- 9/24 名古屋テレビ塔周辺で「防災フェスタ2011」開催、東北物産販売や県外避難者の相談会など
- 10/8~9 愛知のモリコロパークでファンレイジングイベント「愛フェス」で「輪っか和っか」のブース出展
- 10/22~23 名古屋のオアシス21で「ワールドコラボフェスタ」で「輪っか和っか」のブース出展
- 10/23 七ヶ浜で在宅避難者・みなし仮設への支援「芋煮会」開催（以後、月1回イベントを開催）
- 10/27 ものづくり工房で紀宝町への応援グッズ「かえるちゃんタオル人形とメッセージキーホルダー」作成
- 11/12 七ヶ浜の地元漁師とともに「ポッケ汁まつり」開催
- 11/20・27 七ヶ浜仮設店舗・七の市商店街「ハッピードリーム看板を作ろう」開催
- 12/6 「七ヶ浜町きずな工房」オープン
- 12/11 七ヶ浜仮設店舗「七の市商店街」オープン
- 12/12~13、23~24 七ヶ浜で「うるうるお歳暮パック」配送

2012年

- 1/7~8 七ヶ浜で「寒中見舞いプロジェクト」でハガキをお届け
- 1/25 七ヶ浜町きずな工房で貝雑講座開催
- 1/29 七ヶ浜仮設店舗七の市商店街「七の市」開催（以後、毎月最終週の日曜日開催）
- 3/11 七ヶ浜で「たべさいん&RSYポラバス大交流会」開催

- 4/29 湊浜元気まつりに協力
 5/3 七の市商店街交流会（大阪・上町台地の人たちと）
 5/16 きずな工房木工講座
 5/17 ボランティアきずな館に AED 設置
 6/3 お料理交流会（公志会） 6/15 お料理交流会（フィリップモリスジャパン株式会社）
 6/23 みなし仮設交流会名古屋カフェ
 6/31 トライアスロン物産展に協力
 7/1 スマイルフェスタ
 7/2 関上さいかい市場視察
 7/21 避難者のつどい@国際村に協力
 7/21 復興委員会意見交換会
 7/27-29 海祭り
 8/11 NaNa5931 名古屋公演 8/21 NaNa5931 東京公演
 8/28 Wa-syoi 夏祭り
 9/11 わかめ漁サンドバッグ詰め
 9/24 きずな工房講座（音つむぎネット）
 10/7-8 名古屋 NGO センターN たま研修
 10/11 芋煮会@子育て支援センター
 10/20 あさひ園祭りに協力
 11/4 ポッケと収穫祭に協力
 11/18 NaNa5931 七ヶ浜公演鑑賞・交流会
 11/24 ポッケパーティー
 12/16 みなし仮設クリスマス会に協力
 12/21 子育て支援センタークリスマス会に協力
 12/23 七の市商店街1周年大抽選会
 12/24 サンタが家にやってくる

2013年

- 1/15 子育て支援センター餅つき大会に協力 1/26 豆まきに協力
 1/27 あそぶさございん七ヶ浜 de お正月に協力
 1/27 ものづくり交流会 in 石巻
 2/25 中国人留学生交流会
 3/6 名古屋の坊主 念珠作り
 3/16 3・11 メモリアルイベント「絆」
 3/31 きずな館閉所式

定期開催

- 七の市への応援・月1回
 仮設住宅集会場にて足湯・月5回程度
 日本財団ROADプロジェクト足湯隊受け入れ・月1回
 花洲浜まじらん会送迎・月2回
 つながる遊び庭こどもアートしちがはま・月1回程度
 きずな喫茶 水曜～日曜 13:00-15:00

ボランティアバス活動内容

- ・七の市商店街イベント支援
- ・住民交流会
- ・がれき撤去作業
- ・足湯
- ・地域行事への参加・お手伝い
- ・浜の清掃作業



災害ボランティアセンターへの支援

RSYの第1陣が七ヶ浜町に入り、真っ先にしたのが災害ボランティアセンターの支援です。資器材や物資を提供するとともに、まさに飲まず食わずで活動する社会福祉協議会の職員や、ボランティアに駆け付けた地元の中高生らのために炊き出しをしました。

あいち生協からの食材提供は、きずな館オープン後も長期的に続き、被災者やボランティア、スタッフの食を支えてもらいました。



足湯ボランティア

足湯はバケツ一杯のお湯で足を温め、手や腕をさすりながら一対一でゆっくりと会話を交わし、被災者の「つぶやき」を聞き取る活動です。住民の皆さんが避難所に入られていたころか

ら仮設住宅に移られた後も、集会所などで約2年間継続しています。2013年3月末までに、約1,400名のボランティアが延べ3,000名以上の住民の方々の足を温めました。



たべさいんプロジェクト

2011年5月、RSYとつながりのある愛知県安城市の農園や宮崎県の新燃岳噴火災害被災地から提供された野菜で漬け物をつくり、避難所に配る「たべさいんプロジェクト」が始まりました。プロジェクト名は「どうぞ召し上がって」という意味の方言にちなんでいます。

「七ヶ浜町婦人と暮らしを考える会」「ゆいの会」の皆さんや地元ボランティア有志の皆さんが、きずな館のキッチンを活用して調理。避難所で「こんにちはー」と声をかけながらお年寄りたちに漬け物を手渡しすると、「食欲が出

てきたよ」「ありがとう」と会話も広がり、野菜不足解消にもつながりました。この活動は避難所が閉鎖するまで続きました。



七ヶ浜を支える

ボランティアきずな館の運営

2011年4月23日、日本財団ROADプロジェクトのご支援のもと「ボランティアきずな館」がオープンしました。

ボランティアの宿泊施設、住民の方々の憩い

の場所、ボランティアと住民の皆さんとの交流の場づくりを目的に運営され、2年間でのべ約8,000人のボランティアが宿泊し、たくさんの出会いが生まれました。



・きずな喫茶

きずな館の1階は開館当初から「きずな喫茶」と名付けた休憩所として開放し、避難所や仮設住宅での生活で疲れた方や、気分転換したい方々の憩いの場として活用していただきました。喫茶のコーヒーやお茶、お菓子はあいち生協はじめ、多くの支援者の方々にご提供いただきました。喫茶は仮設住宅集会所でも開催されました。



・キッズルーム

同じく1階の小部屋はキッズルームとして親子に開放、子どもを預けて親がゆっくり用事を済ませたり、お茶飲みしたりできる環境をつくりました。運営は地元ボランティア団体「三匹のこぶた」の皆さんにご協力いただきました。



・ボランティア&住民交流会

主に2階スペースを利用して、住民の方々とボランティアバスのメンバーとの交流会を継続的に開催しました。住民の皆さんは町の歴史や魅力、震災当時の状況などをたくさんお話くださり、ボラバスメンバーはお礼にメッセージカードをプレゼントしたり、夕食にご招待したりと、交流は深まっていきました。



応急仮設住宅入居者説明会

2011年5月から6月にかけて、応急仮設住宅入居時の不安を少しでも取り除いてもらおうと、新潟県中越地震（田麦山）や能登半島地震（穴水町）、新潟県中越地震（刈羽村）、岩手・宮城内陸地震（栗駒耕英地区）の経験者を招き、仮設住宅の住まい方やコミュニティづくりについて体験談を話していただきました。各被災地の方々からは「復興までの長い道のり、あせらずゆっくりいきましょう」とメッセージが届けられ、まごころいっぱいの手づくり品や特産品

をお土産に持ってこられ、七ヶ浜の住民と交流を図っていただきました。



表札プロジェクト

2011年5月、大規模半壊以上の被害を受けた住民の方々に「まごころ表札プロジェクト」として、手づくりの表札をプレゼントしました。

津波被害を受けたご自宅の土台の提供や木材の切り出しには、地元大工の渡邊功さん、工藤

昇さんに協力していただき、地元アーティストの「キアロスキューロ・デザイン」さんからは、丸鋸などの機材を貸していただきました。名古屋造形大学「やさしい美術プロジェクト」、新潟の「未来予想図実行委員会」の皆さんには制作運営や画材提供でご協力いただきました。

約500世帯分の表札づくりには七ヶ浜中学校や向洋中学校の生徒さん、町内外のボランティアさんら200名以上の参加があり、完成した表札はたくさんの方々のまごころとともに、お一人ずつ手渡しでお届けしました。



仮設住宅集会所の運営サポート

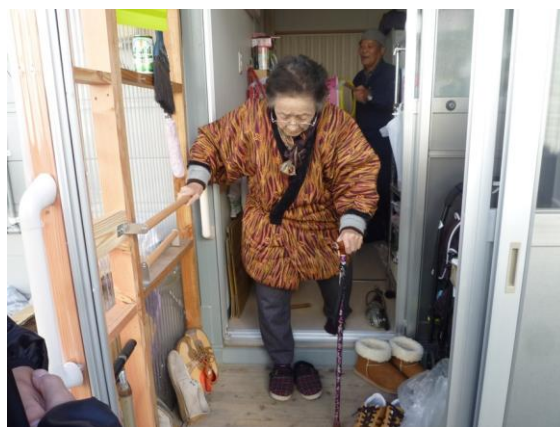
2011年5月から6月にかけて、集会所を早く住民の方々の集いの場として活用していただけるよう、備品の整備や喫茶、バザー、足湯などのイベント開催のお手伝いをしました。運営は七ヶ浜町災害ボランティアセンターと連携し、町内外からたくさんの方々のボランティア団体が応援していただきました。喫茶のお茶やお菓子は約1年間、あいち生協からご提供いただきました。



七ヶ浜を支える

仮設住宅への手すりの設置

アメリカの支援団体「Give2Asia」から助成金をいただき、応急仮設住宅の総合サポートセンター「NPO法人アクアゆめクラブ」のご協力のもと、高齢者・障がい者世帯で希望する18世帯の居室やお風呂場、間口などに手すりを取り付けました。設置作業には岐阜県大垣市の株式会社「モダン工房」のご協力を得ました。住民の皆さんは「一人でトイレに行ける」「安心して外に出られる」と喜んでくださいました。



親子支援

「お母さんを支えることが、子どもを支えることになる」という考えから、未来予想図実行委員会や「海の学校」、町の子育て支援センターと共同で、創作活動を中心とした親子イベントを月に1回ほど開きました。「遊んで学べるものづくり」や「音のワークショップ」、LUSHジャパンの皆さんによるハンドマッサージなど、親子が一緒に楽しめる企画が好評です。

地元の「ママさんボランティア」も運営ス

ップとして参加してくださるようになり、地元の力が活きる取り組みになってきています。



大規模半壊以上の被害を受け民間賃貸借り上げ住宅で生活する方への支援

居住地が町内外に分散し、生活状況がつかみにくい方々には、物心両面の支援が届きにくいという課題があります。2011年6月に岐阜県瑞浪市の支援で開いた「せともの市」でこうした方々の声を聞いたことをきっかけに、町や社会福祉協議会と連携して月1回ほどのペースで喫茶や季節のイベントを開催。年末には約300世帯に生活支援セット「うるうるお歳暮パック」や布団などをお届けしました。

名古屋大学や名古屋学院大学、「もっとHOTプロジェクト」、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議、愛知県内の企業・ボランテ

ィア、「ボランティア友の会」、民生委員などの皆さんから多大なご協力をいただきました。現在は、社会福祉協議会が中心となり、個別訪問や通信誌の発行などを継続しています。



七ヶ浜を支える

浜再生の支援

宮城県内の地元団体と七ヶ浜住民と共に「七ヶ浜再生プロジェクト」を発足、2011年7月から9月の毎週土日に菖蒲田浜海水浴場のビーチクリーンを行いました。仙台近郊を中心に延べ500名以上の参加者があり、「きれいになった浜をまた見に来たい」との声も聞かれました。

震災の影響で夏祭りの開催が危ぶまれた菖蒲田地区では、プロジェクトの最終日となる9月10日に「菖蒲田浜・復興まつり」を開催し、約2,000名の住民やボランティアが楽しいひと時を過ごしました。プロジェクトには地区住民をはじめ、七ヶ浜町建設安全協力会、町災害ボランティアセンター、町復興研究会、豊かな海を

守る会、海の学校、かほく「108」クラブ、仙台サーフショップユニオン、NPO法人杜の伝言板ゆるる、みやぎ生協、みずほフィナンシャルグループ、丸紅、多賀城市市民活動サポートセンター、(財)みやぎ・環境とくらし・ネットワークなどが参画しました。



漁業支援

七ヶ浜町の基幹産業の一つである漁業も津波によって壊滅的な被害を受けました。RSYは地元漁協を中心に「魚をとってこそ漁師だ！」



と再起をはかる漁師らを応援すべく、企業との調整などに当たりました。

重機メーカーのコマツ(株式会社小松製作所)からはフォークリフトが7つの浜に1台ずつ提供され、ブラザー工業株式会社にはワカメ漁師らに漁具を支援していただきました。

RSY名古屋事務所でも、七ヶ浜の名物料理である「ポッケ汁」を名古屋の支援者に何度も振る舞っています。

今後は地元団体を窓口とし、継続的に支援をつなげていきます。

「きずな工房」の設置・運営サポート

大規模半壊以上の被害を受けた方を対象に2011年12月、七ヶ浜町社会福祉協議会が主体となって「きずな工房」が開所、RSYは会計や名古屋での販売促進を中心に運営をサポートしています。ブラザー工業からミシンをご寄付いただき、裁縫や木工のモノづくりを通じて住民同士が交流できる場となり、生きがいや収入を得ることによる生活支援、引きこもりや生活不活発発病の予防にもなっています。



七ヶ浜を支える

仮設店舗「七の市商店街」設置・運営サポート

2011年12月11日、七ヶ浜町生涯学習センター敷地内に仮設店舗「七の市商店街」がオープンしました。

R S Yはこれまで寄せられた寄付金を活用しつつ、きずな館のプレハブ提供元の総合レンタル会社、近藤産興株式会社からさらなるご厚意をいただき、名古屋からテーブルや椅子、棚や冷蔵庫などの店舗資器材を調達しました。また、地元の向洋中学校美術部や町内外のボランティアら約100名は、名古屋造形大学やさしい美術プロジェクトや未来予想図実行委員会とともに各店舗の看板を手作りし、店主たちに贈りまし

た。現在は月1回のミーティングやイベント、店主とボランティアとの交流会などの企画運営をお手伝いしています。



七ヶ浜町復興応援サポータープロジェクト(サポプロ7)

ボランティアにとって七ヶ浜町を「被災地」ではなく「また訪れたい場所」にしてもらうため、「内から外への情報発信」を復興に携わる地

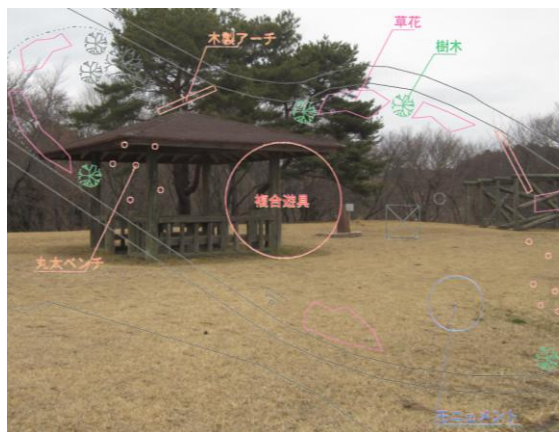


元団体と連携して2012年9月から始めました。

「七ヶ浜復興応援サポータープロジェクト」として、これまでのボラバス参加者などに呼び掛け、13年3月末現在の登録者は654名。ボランティアに來ただけでは分からない七ヶ浜町の魅力、復興に向けて日々移り変わる町の状況などを、メールマガジン配信やブログ、facebookなどでお伝えするほか、七ヶ浜の住民の皆さんとの交流イベントも企画しています。

「きずな公園」の建設

震災の後、仮設住宅の建設、復旧・復興工事により、子どもたちの遊び場が極端に少なくなっていました。親からも、「子どもたちが危険な場所で遊ぶようになった」「低い土地で遊ばせるのは心配」との声が聞かれます。現段階でもできる遊び場が必要と考え、ブラザー工業の支援のもと、中央公民館内の一面に公園を整備することになりました。2013年夏休みにはオープンできるよう、住民とボランティアが協働して造る公園の計画を進めています。



※計画予定地に図面を重ねたイメージ図

ボランティアバス

七ヶ浜町への支援が決まるとともに、名古屋事務局はボランティアバスの準備に取り掛かりました。2011年3月24日にスタッフを含む第1陣が出発し、現地の拠点が整った5月の連休からは常に現地にボランティアが滞在するスケジュールを組み、マイクロバスや大型バスを手配し続けました。

現地での活動は時期を経るごとに変わりましたが、一貫して大切にしてきたことは、名古屋のボランティアと七ヶ浜の住民との交流でした。その結果、2013年3月末までに61陣・1,000

名（延べ2,953名）が名古屋から七ヶ浜を訪れました。



街頭募金



募金箱を手に街頭に立つボランティア

地震発生後すぐに街頭募金の呼びかけを開始し、初回の3月17日には50名を越えるボランティアが集まってくださいました。それから半年間はほぼ毎週土曜日、名古屋の繁華街・栄の街頭に立ち、2012年3月26日までの計33日間で、延べ697名のボランティアによって約250万円が集められました。募金集めだけでなく、募金がどのように活用されたかを伝える写真パネルもつくりました。

うるうるパック

全国のNPOや企業有志でつくるネットワーク組織「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（通称・支援P）」が行う支援物資のパック化「うるうるパック」は2011年5月、名古屋で22企業・グループの関係者と一般ボランティアが2日間で延べ約250名参加し、七ヶ浜町の全小中学生を対象に約4000の物資パックをつくり、現地に搬送しました。

12月には「お歳暮プロジェクト」として、七ヶ浜のほか三重・紀宝町の応急仮設住宅やみなし仮設にお住まいの方、愛知県に避難されてい

る方々に「カタログ」から必要なセットを選んでいただき、約800件のご注文をいただきました。



寒中見舞いプロジェクト



心温まるメッセージが記されたハガキ

震災から半年が経った9月に七ヶ浜を訪れたボランティアが、年明けに向けて七ヶ浜の方々に「寒中見舞い」をお届けしようというプロジェクトを始めました。一般から公募したところ、予想の倍の2,000通を超えるハガキが集まり、1月にはボランティアが仮設住宅の集会所や小学校などで、七ヶ浜の方々に直接手渡ししました。みなし仮設などにお住まいの方へは郵送し、中にはお返事があって、新たなつながりが生まれたケースもあります。

輪っか和っかプロジェクト

震災後「現地には行けないけれど何か力になりたい」という人たちによって、広島・呉などで始まっていたメッセージ入りの「輪っか」をつなげて届けるプロジェクトに、名古屋からも参加しました。職場や家庭、サークルなどで集められた輪っかは約4,500個にもなり、七ヶ浜の仮設住宅の集会場やボランティアきずな館の壁に飾られました。



報告会・講習会の開催

この震災が起きて初めてボランティアに参加する人や、「足湯」のことを知りたいという人た



被災地NGO協働センターの吉椿雅道さんを招いて開催した足湯講習会

ちを対象に、名古屋事務局では「ボランティア説明会」や「足湯講習会」を開催し、事前の心構えなどを知ってもらいました。

活動が積み重なると名古屋での「交流会」を開き、七ヶ浜で活動した人と名古屋にいる人との出会いや情報交換、今後の支援を考えてもらう場としました。

七ヶ浜の現地スタッフが名古屋に戻るタイミングに合わせ、被災地の現状をお伝えする報告会も開催。県内で行われるさまざまなイベントにも積極的に出展し、現地の様子をお伝えして募金活動を行うと同時に、身の回りの備えなど防災の啓発活動にも取り組んできました。

N a N a 5 9 3 1 県外公演の支援

2012年8月、七ヶ浜町国際村を拠点に活動しているミュージカル劇団「N a N a 5 9 3 1」を名古屋と東京に招き、県外公演を催しました。

名古屋では名古屋大学豊田講堂を舞台に、福島から愛知に避難している子どもたちの詩の朗読会などと合わせて1,000人以上の観衆の感動を誘いました。



東京ではニッセイグループの全面的な協力を得て、有楽町の日生劇場で1,200人の観衆を前に公演を成功させることができました。

費用は企業の協賛金や会場での寄付金で大半をまかない、子どもたちの移動や宿泊は国際ソロプチミスト名古屋の皆さんや大勢のボランティアらが気持ちを一つにして支えました。



R S Y 7 5 8 (ボランティアグループ) の発足

2011年3月11日。あの日、日本中の多くの人が「何かしなくちゃ」と動き出しました。それから1年以上の間、名古屋で一緒に活動してきたボランティアと一緒に、風化が叫ばれる震災支援の今後や、被災地に学び自分たちの地域でできる備えを考えていくために、2012年11月、ボランティアグループ「R S Y 7 5 8」を発足しました。

「被災地を思い続ける」「私たちは地震に負け

ない」「できることから行動しよう!」の3つをキーワードとして、2013年2月24日には「ボランティア大交流会」を開催。支援活動に参加した多くのボランティアを含む127名が参加し、ワークショップや物産展、七ヶ浜へのメッセージ書きなどを通してそれぞれの想いを共有しました。今後も実行委員会を定期的に開催し、名古屋でできることを中心に皆で知恵を出し合いながら活動を継続していきます。





特定非営利活動法人レスキューストックヤード
宮城県七ヶ浜町
「ボランティアきずな館」
活動のあゆみ

2013年3月31日発行

特定非営利活動法人レスキューストックヤード
〒461-0001 名古屋市東区泉 1-13-34 名建協 2階

tel 052-253-7550

fax 052-253-7552

e-mail info@rsy-nagoya.com

web <http://rsy-nagoya.com/>

twitter rescuestockyard

facebook rsy.nagoya

七ヶ浜・新事務所（いろりの家）

〒985-0802 宮城県宮城郡七ヶ浜町字吉田浜 5-9

老人福祉センター浜風

浜を元気に！七ヶ浜町復興支援ボランティアセンター内